1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079400125		
法人名	社会福祉法人 日王福祉会		
事業所名	グループホーム くぬぎの里 (ユニットA・ユニットB)		
所在地	〒822-1202 福岡県田川郡福智町神崎1056-114	Tel 0947-22-0280	
自己評価作成日	令和06年07月10日	評価結果確定日	令和06年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	令和06年10月09日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設理念である「地域と共に一人一人が笑顔でノビノビとした暖かい生活」を基本とし明るい雰囲気を作ることに努めています。</p> <p>①現存機能維持のため、時間を要しても待つ介護を心掛けています。</p> <p>②レクリエーション・機能訓練等個々に合わせた支援を行い現存機能維持できるようにしています。</p> <p>③季節を感じて頂く事を目的に、四季折々の行事の取り組みを行っています。</p> <p>④社会参加を目的に、外出(買物・ドライブ・食事等)支援を行うようにしています。</p> <p>④月1回スタッフと共同でおやつ作りを行っています。</p> <p>⑤苑での取り組みや日常生活の様子を知って頂く為、くぬぎだよりを作成しご家族・かかりつけ医・役場等に毎月配布しています。また、個別での活動状況を撮影しご家族に配布しています。</p> <p>⑥利用者様の異変等に迅速に対応できるように常勤で看護師を採用しています。</p> <p>また、かかりつけ医や協力医療機関・協力施設との密な連携を心掛け利用者様に必要な介護や医療が適切に受けられるようにしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>公共施設や温泉センターが近くにある自然環境に恵まれた中で、23年前に開設された定員18名のグループホームである。新型コロナウイルス類移行に伴いコロナ状況を判断しながら、利用者と職員は地域の一人として、敬老会や地区の行事に参加し、文化祭に毎年利用者と一緒に制作した作品を出展し、山笠の飾り物作りや山笠見物等、地域交流が始まっている。利用者のかかりつけ医の受診を職員が同行支援し、主治医と協力関係を築き、週2回の訪問看護師、介護職員との連携で、24時間利用者の健康管理を行い、安心出来る医療体制が整っている。福智町グループホーム協議会と連携し、研修や情報交換を行い、同業者と協力関係を築き、地域福祉事業の貢献に取り組んでいる。また、定期的な外出レクリエーションや福岡での野球観戦等に取り組み、明るい笑顔の利用者を見守る家族の喜びは大きく、利用者や家族と深い信頼関係を築いている、グループホーム「くぬぎの里」である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	☐ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	☐ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	☐ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	☐ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11.12)	☐ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入所者が楽しみや生きがいを見出し、その人らしい生活が継続できるように支援することを目的にスタッフ共同の下、施設理念を作成。玄関・食堂に掲示すると共に、毎日の申し送り時に唱和することで理念の共有を図り、スタッフの意識向上に努めている。	ホーム独自の介護理念を玄関ホールに掲示し、朝礼時に出勤職員で唱和して「今日も一日宜しくお願いします」と大きな声で挨拶して1日が始まっている。申し送りノートの表紙に理念を記載したり、ミーティング時に理念に基づいた介護が実践できているかを確認する等、理念の共有に努め実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	福智町主催の文化祭や敬老会等への参加。地区の祭りの際に、山車が来苑され地域住民との交流が図れる機会等の提供をするようにしている。コロナが2類から5類に移行したため、中止していた行事等が今年度より徐々に再開されるようで、文化祭も9月に予定されている。作品を出品予定である。	新型コロナ5類移行に伴い、福智町の文化祭や敬老会、山笠の飾り物作り等、地域の行事や活動に参加し、文化祭には利用者として制作した作品を出展している。2年に1度の山笠の山車をホーム前の広場で見学することも、利用者の大きな楽しみである。周囲には民家が少ないが、運営推進会議委員の協力を得て、地域交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民等からの問い合わせの際には、当施設への入所に関わらず介護保険・高齢者及び認知症介護施設選び等について随時相談を受けている事を説明し気軽に相談して頂くように、呼び掛けている。また、毎月くぬぎだよりを発行し認知症高齢者・介護保険・高齢者に関する制度などを理解して頂けるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場代表・地域包括支援センター代表・地域住民代表・利用者代表・家族代表・事業所代表により1回/2ヶ月開催している。開催時、文書及び写真掲示により取り組みの報告をしている。意見交換時に地域の情報収集やサービスの提案をして頂きできる限り次回までに取り入れるように努力するようにしている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、利用者、家族、区長、地域包括支援センター職員が参加して、ホームの運営や取り組み、利用者状況、行事予定について報告し、参加委員からは質問や情報提供を受けて話し合い、サービスの向上に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域グループホーム協議会に加入し、情報交換及び質の向上に向けて協議するようにしているが、コロナ禍後も開催できていない。ご希望される利用者が緊急を要する場合は(行政等からの依頼含め)迅速に施設利用できるように24時間体制で対応するようにしている。事業所内で判断困難な場合は、役場や地域包括支援センター等に問い合わせして助言等仰ぐようにしている。	管理者は、介護の疑問点や困難事例があれば、行政窓口に行き相談し、助言や情報提供を受ける等、協力関係を築いている。福智町グループホーム協議会に加入し、行政とこれまで以上に話し合う機会も増え連携を図っている。運営推進会議に、地域包括支援センター職員の参加を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	苑内研修の開催により身体拘束の意味を理解し、アプローチ方法による改善策の検討及びリスクを周知徹底するようにしている。帰宅願望による不穏・離苑行為のある利用者に対しては気分転換の為、散歩やドライブの実施するようにしている。玄関にセンサーや苑内にモニター等を設置しており、外に出ると訴えた際にはスタッフが付き添って出る等の対応をしている。離苑の恐れのある場合は30分毎の所在確認やその日の着衣をデジカメで記録し、万が一離苑した際の捜索がし易いようにしている。	職員会議や勉強会の中で、身体拘束について職員が学ぶ機会を設け、身体拘束が利用者にも与える影響について理解を深めている。また、禁止行為の具体的な事例を挙げて検証し、正しく理解して身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が福岡県社会福祉協議会主催による高齢者権利擁護等推進研修を受講しており、年2回の苑内研修時に意識調査のためのアンケート等も行い意識が低下することのないようにしている。具体的なケアに関しては日々確認し、申し送り時にミニカンファレンス等を行い虐待防止の認識を周知徹底し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が福岡県社会福祉協議会主催による高齢者権利擁護等推進研修を受講している。ご家族からの相談時にも成年後見人制度について説明している。身元引受人がない場合には、包括支援センターや担当ケースワーカー等と連携を図り制度の利用ができるように支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、勉強会を職員会議の中で実施し、職員の理解を得ている。制度に関する資料やパンフレットを用意して、利用者や家族から相談があれば、内容や申請手続きについて分かり易く説明し、利用者の権利や財産が不利益を被らないように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、利用者及びご家族の不安や疑問点等をお聞きすると共に十分な説明を行い納得して頂いた上で契約を交わしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置し、自由な意見・苦情などの把握ができるようにしている。利用者個々に担当スタッフを配置し、密に把握できるようにしている。管理者から入所時や来苑時等に、意見・要望等を抱え込まず伝えて頂く様に説明し、共同してより良い施設作りができるように伝えている。	職員はホームの日常生活の中から利用者の思いや意向を聴き出し、利用料金の支払いに、最低でも月に1回は家族の来訪をお願いし、その機会に利用者の暮らしぶりや健康状態を報告し、家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、ホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務内及び毎月開催されるミーティングにおいて職員の意見や提案が出せる雰囲気や時間を作っている。その際に出た意見や提案についてはできる限り反映させるようにしている。管理者の意見のみを押し付けず、各ユニットのことはユニットリーダーに任せスタッフ間で話し合い問題解決する様に努めている。	ミーティング手当を支給する等工夫して、ほぼ全員の職員が参加するミーティングを毎月開催し、活発な意見交換が行われ、出された意見や要望は、出来る事からホーム運営や業務改善に反映させている。また、管理者と職員は信頼関係を築き、気軽に話が出来る関係で職員の悩みや心配事の相談にも応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフに役割を持ってもらい、個々が考えて業務を行うことにより成長できる機会を提供し、年1回の一時金支給時は評価制度を導入している。また、疑問点などは上司からのアドバイスだけでなく、対応策をスタッフ間で話し合い納得した中で業務に当たる環境を作っている。スタッフが望む外部研修があれば参加できるようにしている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては特に年齢・性別等による採用基準は設置していない。個々の能力にあった研修を選択してもらい受講することで能力向上できるように支援している。スタッフから申し出等があった資格取得や希望する研修に関しては業務を調整し、能力の向上が図れる様に全面的に支援するようにしている。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や介護に対する考え方を優先し、採用後は、外部の研修会受講や資格取得を奨励し、職員一人ひとりの介護技術の向上を目指している。管理者は、職員の特長や能力を把握し、適材適所に役割分担し、勤務体制にも配慮して、働きやすい職場環境である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	申し送り時等の日々の業務内において利用者の人権・権利擁護などについてミニカンファレンスを頻繁に行っている。福岡県社会福祉協議会主催による高齢者権利擁護等推進管理者が権利擁護推進員養成研修を受講しており、スタッフへ伝達講習できるように取り組んでいる。	利用者の人権を尊重する介護サービスについて、勉強会や外部研修会の中で学び、常に職員間で話し合い、言葉遣いや対応に注意して、利用者一人ひとりの個性や生活習慣に配慮した介護サービスに取り組んでいる。また、行政から提供される人権についてのビデオを觀賞し、職員一人ひとりの意識づけを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの質の向上の為、育成が不可欠と考え年1回は全スタッフが外部研修に参加するようにしている。毎月、苑内研修を行っている。また、研修案内の提供やスタッフから申し出等があった資格取得や希望する研修に関しては業務を調整し、能力の向上が図れる様に全面的に支援するようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上のため、意見・情報交換およびスタッフへの研修会参加・スタッフ交流の機会提供を図ることを目的にグループホーム協議会に加入し、2ヶ月に1回開催される会合に参加するようにしている。コロナが2類から5類に移行したが、現状も再開されていない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の把握・信頼関係作りを目的に担当者を配置し、利用者やご家族の訴えや希望を傾聴しやすい環境づくりに努め日々のサービスの質の向上に繋がるように努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時には施設見学に来て頂き施設の目的・理念の説明及び案内を行い、施設の雰囲気等も見て頂いている。利用者及びご家族の現状・希望を伺い施設で対応可能な範囲等もきちんと説明の上、不安解消し納得して頂けるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談時に利用者及びご家族の現状や希望を確認し、当グループホームの入所のみならず必要なサービスを冷静に判断した上で、対応するようにしている。必要に応じ他の介護サービスの紹介や医療面でのフォローの必要性等をアドバイスするようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間を要しても待つ介護を心掛け現存機能維持できるように支援している。また、様々な取り組みを行うことで新たな発見にスタッフが感動することもあり、その際にはできる限り写真による記録を残しご家族にも情報提供できる様にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には自立支援を目的にしており、ご自分でできることはして頂きできないことはスタッフと共に行い現存機能維持できるように支援していることを理解して頂けるように説明している。また、面会時や苑だよりで近況報告を行うと共にご家族の希望を確認し、サービスの提供に反映するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の友人や知人が訪問されたり、できる限り入所に利用していたかかりつけ医を継続して利用するようにしている。コロナが2類から5類に移行したが地域で感染者が発生しているため、全面的にフリーにできない状態である。ご家族との面会は、週1回2名で20分間で実施している。	利用者の家族や親戚の面会が多く、訪れやすい雰囲気作りを心掛け、利用者の良い時間を過ごして貰えるように配慮している。出来るだけ地元の行事に参加するようにして、(どんど焼、文化祭、敬老会)馴染みの場所や人との関係が、ホーム入居後も継続できるように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のレベルに合わせたテーブル席の配置やIADLの現存機能維持を目的に、レクやテーブル及びお盆拭き・掃除・洗濯等を利用し、友人作りの機会提供と共に分担・協力し支え合う体制を作っているようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的入院が必要となる場合は、適切な病院を紹介したり退所後も、ご家族から継続的に気軽に相談できる体制をとり、必要とする情報や知識を提供するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画書の作成にあたり、その都度ご本人及びご家族の意向確認している。本人が判断できない場合には日常の会話・行動から思いをくみ取りご本人及びご家族の要望に沿うように努力・検討している。また、常時観察している担当スタッフの意見も取り入れて計画書を作成している。	利用者の重度化が進み、思いや意向の把握が少しずつ難しくなっているが、家族に相談したり、これまで築いてきた関係の中から、本人本位に考え、職員間で話し合っ共有し、利用者の思いや意向に配慮した介護サービスの提供に取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご本人及びご家族より基本となる情報を聴取している。また、入所後もご本人やご家族とのコミュニケーションから習慣等の情報を得ている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画書の作成にあたりアセスメント聴取時基本となる情報を得ている。ご本人との日々のコミュニケーションからも現状把握に努めている。また、日々の健康チェックにより総合的に把握できるようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向確認・モニタリング→アセスメント聴取→介護計画書の原案作成→ケアカンファレンスを開催し、介護計画を作成している。ご本人の希望やご家族の意向にできる限り沿うように多方面からの視点でのプラン作りに努めている。また、ケアに携わるスタッフのやりがいや自信を深めるために全体の意見交換の場を設けそれぞれの意見やアイデアを反映した介護計画書作りをしている。	担当職員やケアマネージャーは、利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望を聴き取り、モニタリングやカンファレンス、毎日の申し送りの中で検討し、利用者本位の介護計画を半年毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、現状に即した介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を介護記録やチェック表に記入している。施設独自の観察項目を順次詳細に記録することで新人スタッフでも利用者の状態把握がしやすいようにしている。毎月開催しているケアカンファレンスやミーティングなどにより必要なサービスの提供を検討している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人及びご家族の状況により生じるニーズに対してできる限り柔軟な対応を行うように、努力している。ご家族がいない利用者や遠方在住の場合には入院時の対応や買物支援など柔軟に行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	役場・地域包括支援センター・社会福祉協議会等に苑だよりを配布し、当施設の存在を認識して頂けるようにしている。また、包括支援センター・役場等とは密に連携を取るよう努め、離苑・火災・災害時には相互協力が得られる体制を整えることで安心して生活できるようにしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族の意向を確認し、できる限り入所前のかかりつけ医への受診を継続するようにしている。また、必要に応じて専門医への受診の必要性を説明し、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者や家族の希望を優先して、馴染みのかかりつけ医の受診を職員同行で支援している。利用者の状態変化や薬の変更等があった場合は家族に報告している。それぞれの主治医と関係を築き、週2回の訪問看護師と介護職員の連携で24時間利用者の健康管理を行い、安心して任せられる医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師来苑日以外にも、必要に応じて状態・気づき・変化なども常時報告し、指示を仰げる体制である。また、各種チェック表・介護記録・検査伝票の点検・出勤時の状態観察により適切な対応ができる体制を整えている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ご家族と共に病状説明を受けたり、入院期間中の状態把握のための訪問している。看護師やソーシャルワーカーとの連携による退院に向けての情報交換及び話し合いを行っている。また、病院内の地域連携室との情報交換を密に行うようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化の早期発見に努め、必要な病院受診を行いご家族へ報告している。ご本人及びご家族の意向を踏まえスタッフ間で検討し「できること・できないこと」を明確にし、ご家族・医師との相談の下、できる限りの支援を行っている。レベル低下や病状・認知症の進行等が見受けられた場合には、ご家族へ今後予測されることを報告して方向性等も視野に入れて頂くようにしている。	契約時にターミナルケアの方針について、利用者や家族に説明し、希望を聴いている。これまで看取りの経験はないが、家族の要望があり、協力が得られる等条件が揃えば、「お手伝いはさせていただきます」と伝え、いつでも対応出来る体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時対応に備え病態生理・バイタルチェック(血圧計・脈拍・熱・酸素飽和度の測定)の苑内研修の実施およびマニュアルを活用している。日々の業務内において発生した症例については、対応方法を申し送り時のミニカンファレンスやミーティング時に明確にし適切な対応ができる様にしている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を選任し、年2回の訓練を実施している。年に1回は、消防署立ち合いの下、行うようにしている。日々の業務内で、移乗・移動等ができるようにしている。実際の避難誘導時にきちんとできるように訓練している。また、災害時のマニュアルや連絡網を完備している。	非常災害を想定した避難訓練を年2回実施し、通報装置や水消火器を実際に活用して使用方法を確認し、利用者全員を安全に避難場所に誘導出来るように取り組んでいる。また、地元の消防団と連携を図り、緊急時の協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室入室時・入浴・排泄・更衣介助時などには十分な配慮を行いプライバシー保護に努めるようにしている。また、人格を尊重し、誇りを損ねないような声掛けを行うようにしている。	利用者ひとり一人の尊重やプライバシーを守る介護サービスについて、職員会議や申し送り時に話し合い、言葉遣いや対応に注意して、利用者が安心して暮らせるグループホームを目指している。また、利用者の個人情報取り扱いや、職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当スタッフを配置し、思いや希望を表現しやすい環境作りに努めるようにしている。また、担当者支援による外出(買物・外食・ドライブ)時等を利用して自己決定できる機会を提供するようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一連の作業的な流れではなく、一人ひとりの生活スタイルを尊重し、趣味や今できることを日常生活の中で活かして、できる限りその人らしい生活が継続できるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容室2ヶ月に1回利用している。更衣時には、季節にあった衣類をスタッフと共に選んでいる。外出時には、バッグ・帽子等の小物を一緒に選び身だしなみに関心を持って頂けるように支援するようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常生活において食事は大きな楽しみと思われるが、通常は湯煎の食事を提供している。最低月1回は手作りの食事を提供したり、外食・おやつ作りを行い季節毎に変化が味わえるようにしている。利用者のレベルにあった食事の準備や後片付けなどをスタッフと一緒にやっている。また、視力低下している利用者にも解るように食前にメニュー説明を行っている。	配食サービスを利用し、精米して御飯と汁物はホームで作って、家庭的な食事を提供している。毎月2回は利用者の希望を聞いて職員が食事作りに取り組み、個別レクレーションや行事では外食の機会を設け、利用者が食事を楽しむことのできる支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事提供については栄養バランスを考慮し偏りのないように提供している。摂取量・飲水量の管理を行っており、確保できない利用者に関しては栄養補助食品の導入や食事形態(刻み食・ミキサー食)・トロミ剤の使用・飲物の種類・ゼリー・アイスクリームを提供する等の対応をするようにしている。また、必要に応じ治療食の提供や介助を行うようにしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い口腔内清潔保持に努めると共に口腔内の観察を行っている。義歯は、入れ歯洗浄剤を使用している。週1回の歯科往診で定期的にケアしている。また、毎月口腔衛生管理に関する指導を受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行うことでパターンを把握し排泄誘導を行うようにしている。日中はできる限りトイレで排泄を行って頂けるように支援するようにしている。レベルに応じ夜間のみポータブル設置を必要とする利用者もおられるが自立支援の一手段と考えている。	職員は利用者の排泄パターンや生活習慣を把握し、利用者が重度化しても職員2人体制で、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。個人記録に、毎日の排泄の状況を記録し、状態を把握してトイレ誘導を行っている。夜間常もコール対応やポータブルトイレの使用等、利用者一人ひとりに合わせて柔軟に支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理を行っている。日々、水分管理・運動療法等を行うようにしている。便秘時には冷たい牛乳の提供・腹部マッサージ及び温罨法・腸の蠕動運動及び腹部膨満等の確認を行いできる限り自然排便できるように支援している。イレウスの既往歴の方などは、必要に応じた下剤等の使用もするようになっている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態を把握した上でできる限りご本人の希望に合わせて入浴介助している。入浴拒否される入所者に関しては、時間を置いたり、曜日変更したりして対応している。必要に応じ清拭や足浴も取り入れている。	入浴は利用者の希望や体調に配慮して週3日を基本とし、一番風呂を好まれる利用者等、個々の希望になるべく浴えるよう配慮している。入浴は利用者職員がゆっくり会話できる大切な時間と捉え、楽しい入浴支援を行っている。希望があれば近隣の温泉施設も利用している。また、入浴を拒否される利用者には、曜日をずらす等して対応し、無理強いない入浴支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢及び身体状況により、必要に応じ休息のため、日中の臥床時間を設けるようにしている。また、夜間の睡眠時間確保の為、日中の活動(外出・散歩・レク)量の確保に努めるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局からの説明書を保管し、スタッフが確認できるようにしている。用法等が特殊な場合は看護師が説明している。たま、新規及び追加処方があった場合は申し送り帳を活用して伝達し全スタッフが把握できるようにしている。薬に関しては、施設管理とし処方箋通りに投与する様にしている。精神薬や下剤に関しての投与は、担当医と協議の上で施設内でコントロールし、次回受診時に状況を報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の継続・洗濯物干しやたたみ・お盆拭き・テーブル拭き・自室の整理整頓等その方にあった役割を持ち有意義な生活が継続できるように支援するようにしている。また、担当スタッフの外出支援時やレクの時間を活用して買物したりファミレス等で外食する等の楽しみな時間の提供や気分転換が図れる様に支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	利用者の希望に応じて担当者話し合い、できる限り外出・散歩・買物ができるように支援するようにしている。また、毎月最低1回は利用者全員を対象とし社会参加や季節を感じて頂けることを目的にその方のレベルに合わせたドライブや外食等をするようにしている。ご家族との外出希望がある場合にはご家族に連絡・協力して頂き外出するようにしている。	新型コロナ5類移行に伴い、季節の花見(梅、桜、チューリップ、藤等)や、ヤフオドームでの野球観戦、地元の行事への参加、病院受診帰りの寄り道等、少しでも戸外に出かけられるように取り組んでいる。また、ひとつの行事に利用者の重度化で、全員での参加が難しくなっているが、土、日曜日を利用して、個別での外出支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行により金銭の自己管理が出来ない利用者が多く、トラブル回避の為、施設が管理している。買物や外出時にはご本人が選択・自己決定し購入するようにしている。また、預り金の収支に関しては毎月書面化し領収書との照合をして頂くことで問題が発生しないようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じて電話や手紙等の通信が自由できるように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所者が思い思いに過ごせるように廊下にソファを配置している。居間からは施設のシンボルであるくぬぎの木が眺められる。施設内は、整理整頓や清潔保持に努め居心地の良い共有空間づくりをするようにしている。日中は、苑庭の散歩等を行うことで季節を感じたりできるようにしている。	ホーム内は全館バリアフリーを設置し、利用者が安心して安全に生活出来る環境を整えている。換気や清掃をこまめに行い、開設23年になるが、臭いのない清潔な生活環境である。室内には、利用者の笑顔の写真や手作りの飾り物、貼り絵の作品等を掲示し、季節感のある家庭的な雰囲気のある共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファを置き、思い思いに過ごせる空間作りをしている。仲の良い利用者同士でテレビを観たり、ソファで昼寝をしたりしている。ホールで過ごす時間が多い為、利用者のレベルや関係を考慮した座席配置を心掛けている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、ご家族に説明し使い慣れた家具・寝具を持ち込んで頂いている。配置に関しては、ご本人の状態を把握した上でアドバイスを行なっている。冷蔵庫は、食品等の衛生管理上ご遠慮頂いているが、それ以外の家具の持ち込みは特に制限していない。仏壇等の持ち込みもあり。	室内は大きなクローゼットを設置し、利用者の馴染みの物を持ち込んでもらい、テレビや仏壇等を配置し、生活環境が急変しないように配慮し、利用者が安心して、穏やかに暮らせるように支援している。また、利用者の状況や動線に配慮しながら家具の配置を考える等、利用者が安全に過ごせる居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで手摺りを設置し安全に移動できる様にしている。トイレや浴室が判るように表示している。また、居室ドアに大きく名札を掲示し担当者なども判るようにしている。		